

## 1 社会・治安情勢

- (1) 2017年11月に実施された大統領選後、開票プロセス等をめぐって全国各地で大規模なデモや道路封鎖が実施され、警察部隊と衝突する事案も多く発生した。
- (2) 4月末以降、教育・保健システム転換・再構築法案の反対や関連法案の廃止を求めた教育・医療従事者によるストライキやデモ・道路封鎖等の抗議活動、大型貨物の料金所通行料金の値下げを要求した運送業従事者による全国規模の道路封鎖等が頻繁に実施され、一部参加者が、警察部隊への投石、公共施設等への放火や襲撃、商店等に対する略奪行為が行われるなど暴徒化し、死傷者も発生した。
- (3) 6月中旬には、警察官の処遇改善を求め、国家警察の一部警察官によるストライキが発生した。
- (4) 現在、上記関連のデモは沈静化しているものの、今後、新交通法の制定、選挙法の改定等、一部の国民の反発を受けて、再度、デモが活発化する可能性は否定できない
- (5) 昨今では、学生活動家グループ（※特にホンジュラス国立自治大学（UNAH）グループ）が他の活動等に便乗してデモを実施し、タイヤ、投石する等暴徒化している。昨年11月には、同大学学生活動家グループが、付近のハンバーガーショップを襲撃し、火焰瓶で店内の一部を燃焼させた。昨年12月にも、同じく同大学前において、通行中の公共バスを襲撃し、バス3台を完全に燃焼させるなどした。また、4月以降のデモや道路封鎖でも、公共施設等への放火や襲撃等の多くが、同学生活動家グループが関係していると報じられている。
- (6) 引き続きデモ及び道路封鎖箇所には近づかない、移動に当たっては事前に当館領事関連情報（領事メール等）をチェックするなど注意を要する。

## 2 一般犯罪，凶悪犯罪の傾向

- (1) ホンジュラス国立自治大学暴力研究所（OV-UNAH）によると，2018年中の殺人事件発生件数は，3,733件（前年比-133件），10万人当たりの殺人死者数（以下，「殺人率」と称す）は41.4人（同-2.2人）と引き続き減少傾向にある。しかし，当国の殺人率は，中南米・カリブ諸国21ヶ国中4番目に悪く，依然として高い水準であることに変わりはない。
- (2) 殺人事件の約70%は銃器を使用したものであり，また，約40%が午後6時頃から午前0時までの夜間に発生している。
- (3) みかじめ料の支払いを拒否したことによる，犯罪組織からの報復と考えられるバス，タクシーなど公共交通機関関係者に対する殺人，銃撃，放火事件も引き続き発生しており，「ラピディート」と呼ばれるマイクロバス（公共バス）や流しのタクシーは使用せず，安全な交通手段（無線タクシー等）での移動を勧めている。
- (4) 銃器を使用した強盗事件も，引き続き首都圏全般で発生しており，徒歩での移動も極力避け，車両での移動を勧めている。
- (5) 2018年中の窃盗・強盗事件は，14,384件（前年比+2,193件）で，1日平均約65件発生している。警察に届出る文化も根付いていないことから，数値以上に発生していると思料される。
- (6) コカイン，マリファナが大量押収されるケースは続いており，東部密林地帯等で薬物精製所，密輸用滑走路も発見されていることから，当国が，他の中南米諸国からの薬物の中継地及び精製拠点として位置付けられている状況は変わっていない。最近では，国内でマリファナ等の栽培も確認，摘発されている。

## 3 最近の邦人及び邦人以外の被害事案

- (1) 邦人の被害事案

知人男性と応援するサッカーチームの話をしていたところ、対立するチーム関係者から罵声を浴びせられ、ビール瓶を足下に投げつけられ、割れた破片で負傷。

## (2) 邦人以外の被害事件

ア 4月2日午前、サンタバルバラ県の山岳部を走行していたバスが強盗に遭遇し、乗客は所持金品を強取された。娘を強盗から守ろうとした男性乗客が銃で撃たれ死亡。

イ 4月4日夜間、テグシガルパ市のショッピングセンターで買い物後、駐車場を歩いていた男性3名が銃撃を受け、1名が死亡、他の2名も銃撃を受け負傷。

ウ 4月5日午前、テグシガルパ市において、エルカリサル～セントロ～ラソサ間を走行中のラピディートが襲撃されたものの、付近の警察署に逃げ込み、運転手乗客ともに無事であった。

エ 4月8日夜間、コルテス県チョロマ市において、外を歩いていた男性が強盗に遭遇。携帯電話機を出すように言われるも拒否したところ銃で撃たれ死亡。

オ 4月10日夕方、チョルテカ県チョルテカ市において、デモに参加していた男性が銃で撃たれ死亡。

カ 5月5日深夜、テグシガルパ市において、飲食店に勤務していた男性がオートバイで帰宅途中に強盗に遭遇。要求に従わなかったところ、銃で撃たれ死亡。

キ 5月8日午前、ジョロ県エルプログレソ市において、昆虫の買い付けに来ていた韓国人男性とドイツ人男性が拉致され、韓国人男性は死亡。ドイツ人男性は、負傷していたものの自力で逃走。

ク 5月8日午後、テグシガルパ市において、乗客を装ってラピディートに乗車していた強盗犯が、乗客から所持品を強取。所持品を渡すことを拒否した男性を銃で殺害。

ケ 5月30日夜間、テグシガルパ市において、マラスの抗争が発生。流れ弾で

付近にいた一般人5人が死亡。

コ 6月7日夜間、テグシガルパ市において、薬局に訪れた男2人が、警備員を銃で殺害し、所持していた銃を強取して逃走。

サ 6月17日、コルテス県チョロマ市において、ロペスアレジャーノ～サンペドロスーラ間のラピディート車内で乗客を装っていた男性が、運転手及び料金の集金係を銃で殺害。

シ 6月18日、コルテス県サンペドロスーラ市において、セントロ～ロマスデルカルメン間のラピディートが、オートバイに乗車した2人組の男性に銃撃され、運転手が死亡、乗客3人が負傷。

#### 4 テロ・爆弾事件発生状況

特になし。

#### 5 誘拐・脅迫事案

日本人に対する被害はなし。

#### 6 日本企業の安全対策に対する諸問題

(1) 一般的にホンジュラス人の対日感情は大変良好であり、日系企業をターゲットとしたテロ等の発生可能性は低い。しかし、日本人企業家を対象とした強盗等は過去に発生しており、一般・凶悪犯罪に対しては十分な注意が必要である。

(2) 危険度2地域に、商用等で来訪する場合には、事前に十分な情報を収集し、適切な安全対策を行うことが重要である。

(3) 犯罪被害に遭わないためには、国内の危険地区を十分に把握し、その地区には近づかないことが肝要である。当該地区での業務予定がある場合は、現地治安機関及び日本大使館から十分な治安情報を収集することが重要である。